参考資料2

一般国道２０号　長野県諏訪市（すわし）～下諏訪町（しもすわまち）間
地域の意見聴取（第２回）
―　クロス集計結果　―

平成28年4月12日　関東地方整備局

参考資料　目次

参考１．クロス集計結果【住民等】

住民等　属性（地域別）　・・・ 3
住民等　属性（年齢別）　・・・ 4
住民等　属性（職業別）　・・・ 5
住民等　利用頻度／手段／目的（年齢別）　・・・ 6
住民等　回答状況（地域別／年齢別）　・・・ 7
住民等　回答状況（頻度別／手段別／目的別）　・・・ 8
住民等　結果の妥当性（地域別／年齢別）　・・・ 9
住民等　結果の妥当性（頻度別／手段別／目的別）　・・・10
住民等　重視すべき項目（地域別）　・・・11
住民等　重視すべき項目（年齢別）　・・・12
住民等　重視すべき項目（利用頻度別）　・・・13
住民等　重視すべき項目（利用手段別）　・・・14
住民等　重視すべき項目（利用目的別）　・・・15

参考２．クロス集計結果【事業者】

事業者　目的地／利用路線｜出発地／手段　・・・17
事業者　利用頻度（業種別／頻度別）　・・・18
事業者　回答状況（業種別）　・・・19
事業者　結果の妥当性（業種別）　・・・20
事業者　重視すべき項目（業種別）　・・・21
事業者　重視すべき項目（頻度別）　・・・22

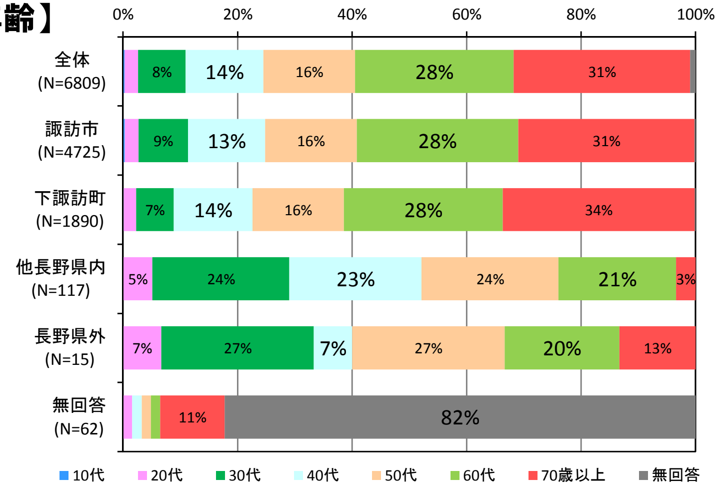
参考1．クロス集計結果【住民等】

※留置き、Webを含む

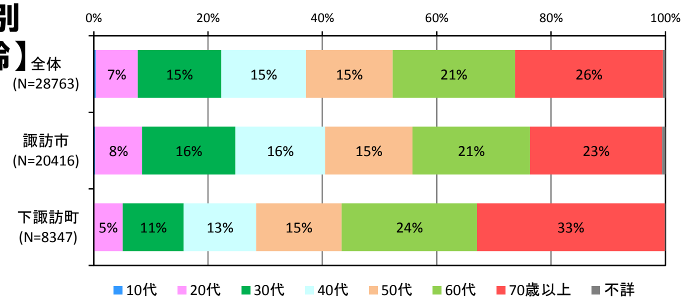
住民等　属性（地域別）

- ◆ 地域別の年齢では、諏訪市・下諏訪町の方が年齢層が高い。
- ◆ 地域別の職業では、諏訪市・下諏訪町の方が自営業や無職の割合が高い。
- ◆ 地域別の性別では、その他長野県内や長野県内の方が男性の割合が高い。

【地域別年齢】

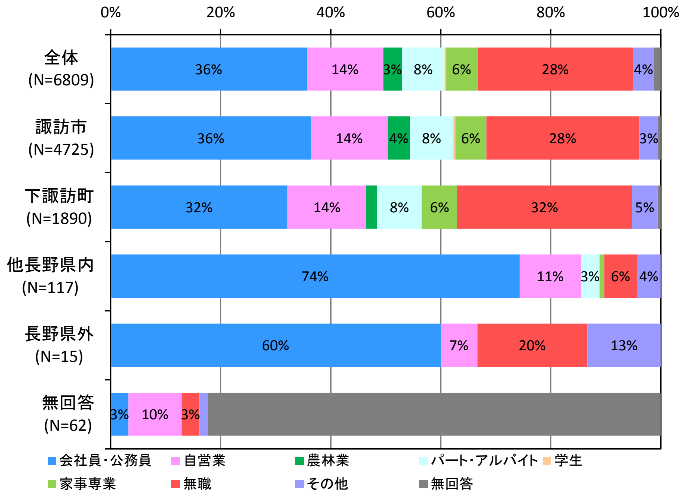


【参考：市町別世帯主年齢】

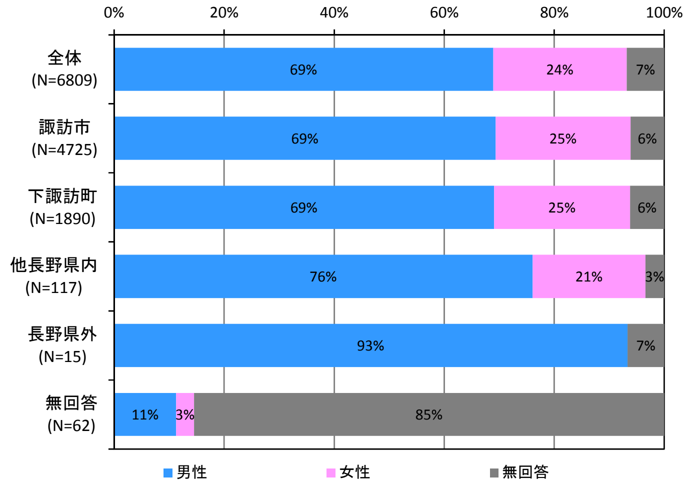


資料：平成22年国勢調査

【地域別職業】



【地域別性別】

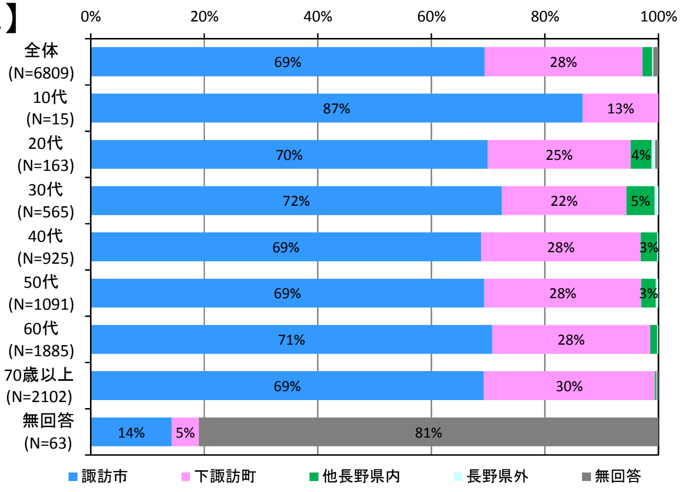


※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

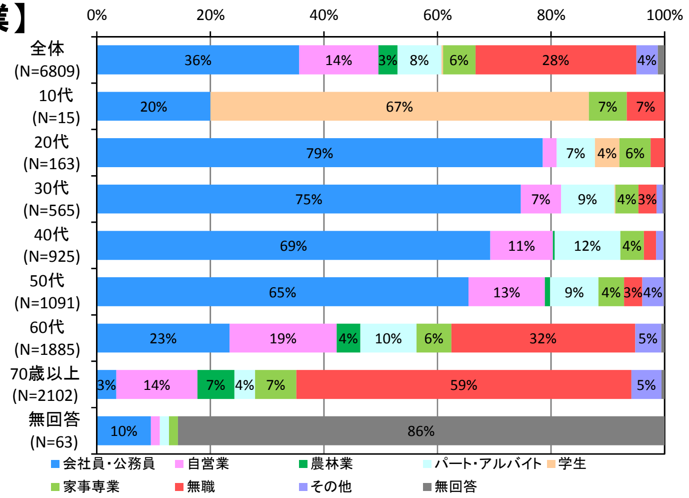
住民等　属性（年齢別）

- ◆ 年齢別の地域では、年齢による地域の差異はあまりない。
- ◆ 年齢別の職業では、10代は学生、20代～50代は会社員・公務員、60代、70代は無職の割合がそれぞれ高い。
- ◆ 年齢別の性別では、若年の回答者ほど女性の割合が高く傾向がある。

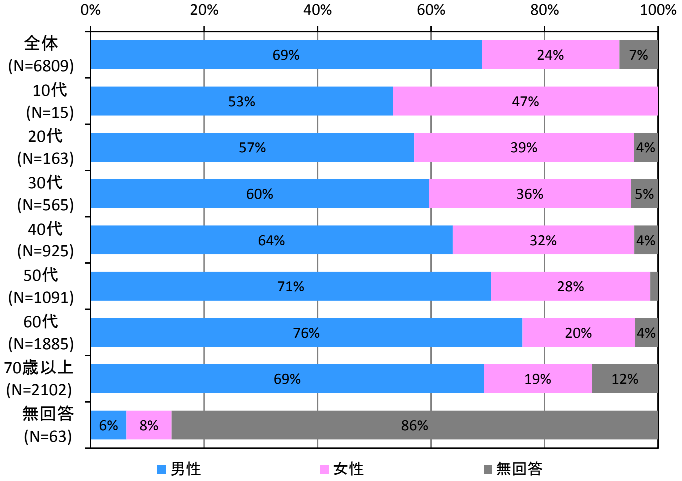
【年齢別地域】



【年齢別職業】



【年齢別性別】

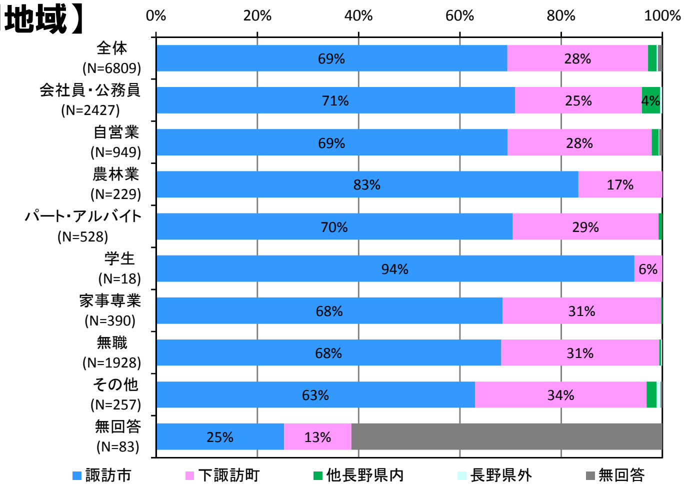


※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

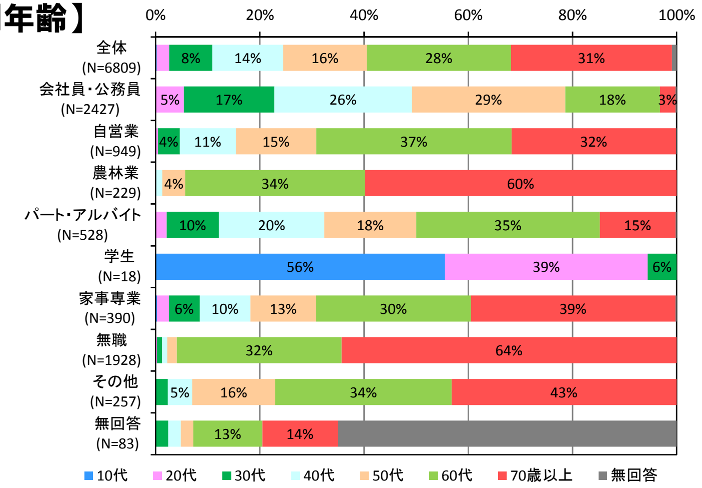
住民等　属性（職業別）

◆ 職業別の地域では、農林業や学生における諏訪市の割合が比較的高い。
◆ 職業別の年齢では、農林業や無職における60代以上の割合が高い。
◆ 職業別の性別では、パート･アルバイトや学生、家事専業における女性の割合が高い。

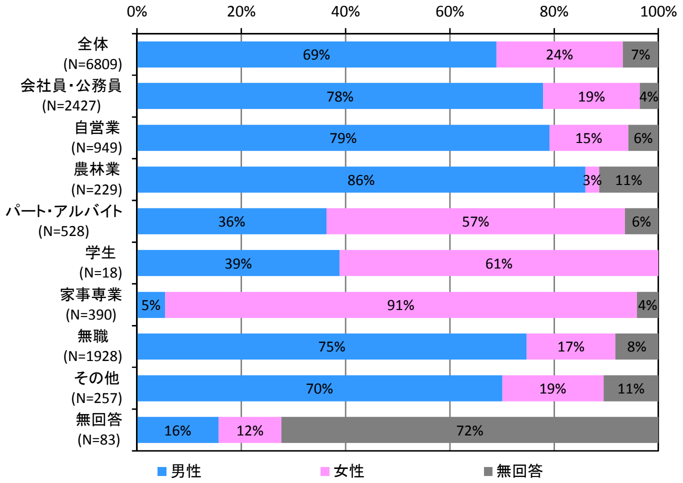
【職業別地域】



【職業別年齢】



【職業別性別】

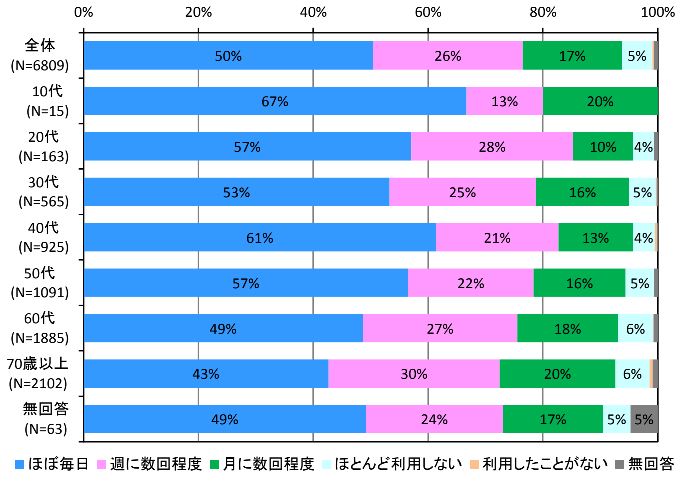


※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

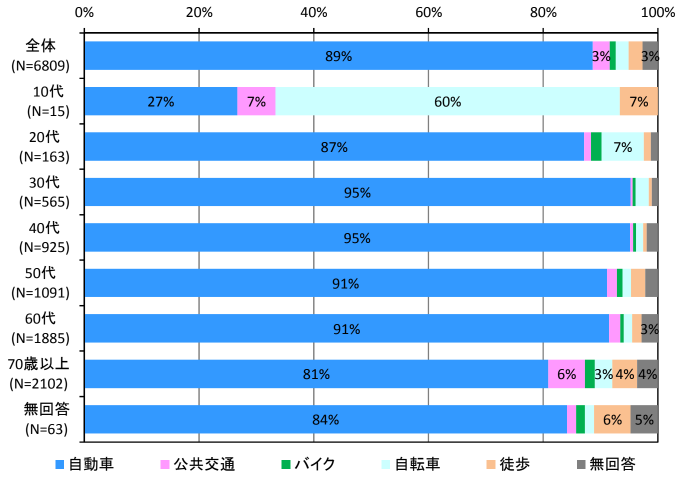
住民等　利用頻度／手段／目的（年齢別）

- ◆ 年齢別の利用頻度では、10代、40代～50代の利用頻度が比較的高い。
- ◆ 年齢別の移動手段では、20代以上自家用車の割合が高く、10代は自転車の利用が多い。10代と70歳以上は公共交通の利用が多い。
- ◆ 年齢別の利用目的では、10代～50代における通勤・通学や仕事での利用が比較的多い。

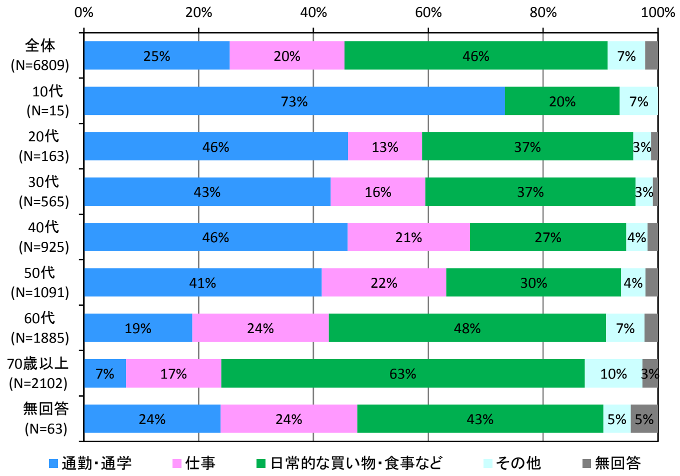
【年齢別 利用頻度】



【年齢別 移動手段】



【年齢別 利用目的】

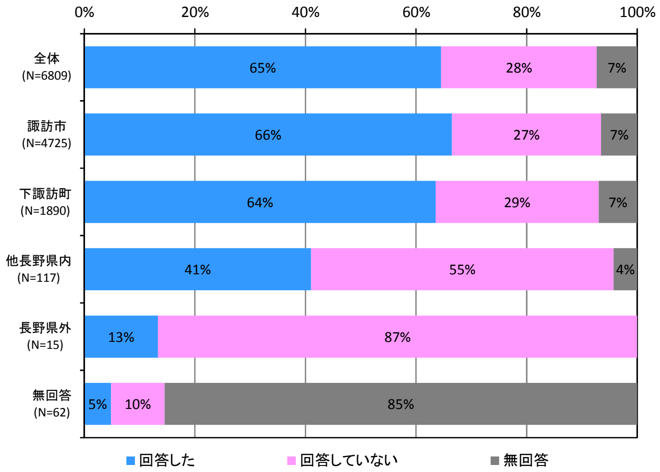


※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

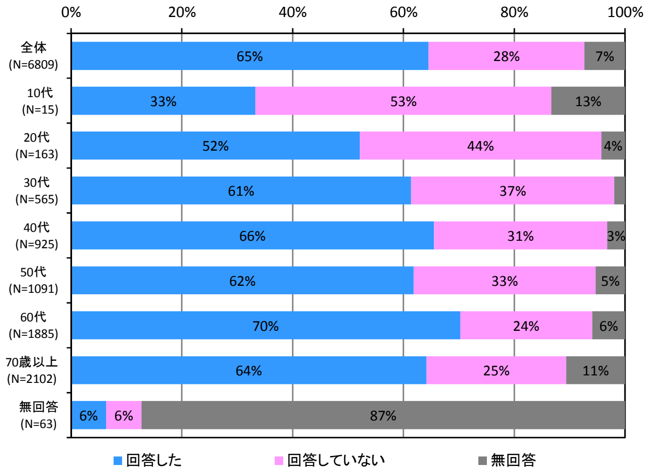
住民等 回答状況（地域別／年齢別）

◆ 地域別の回答状況では、諏訪市や下諏訪町の方が「回答した」の割合が高い。
◆ 年齢別の回答状況では、年代が高くなるほど「回答した」の割合が高くなる傾向にある。

【地域別 回答状況】



【年齢別 回答状況】

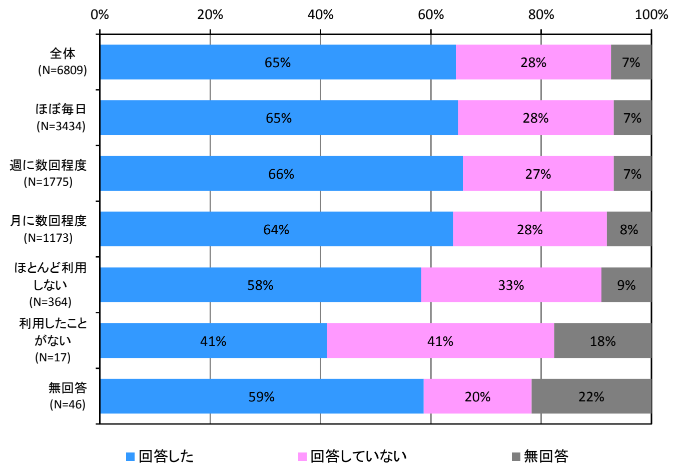


※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

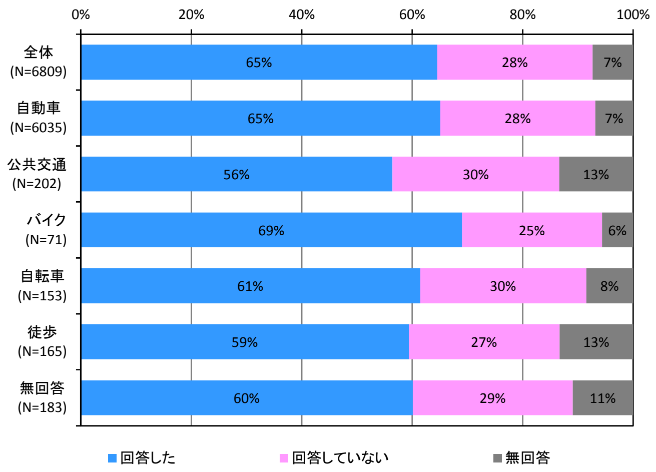
住民等　回答状況（頻度別／手段別／目的別）

- ◆ 利用頻度別の回答状況では、利用頻度が高くなるほど「回答した」の割合が高い傾向にある。
- ◆ 移動手段別の回答状況では、「回答した」の割合に差異はあまりない。
- ◆ 移動目的別の回答状況では、「回答した」の割合に差異はあまりない。

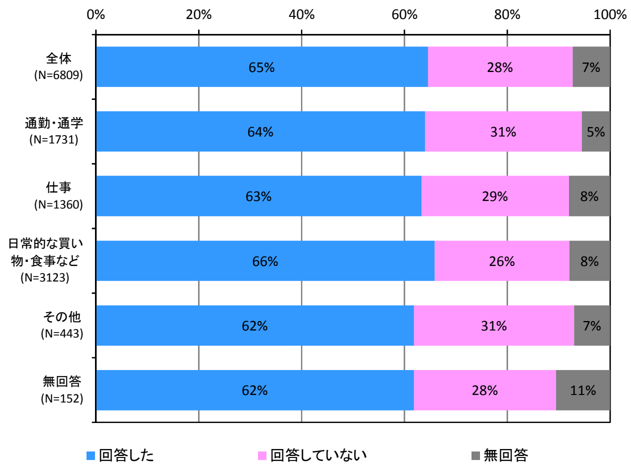
【利用頻度別回答状況】



【移動手段別回答状況】



【利用目的別回答状況】

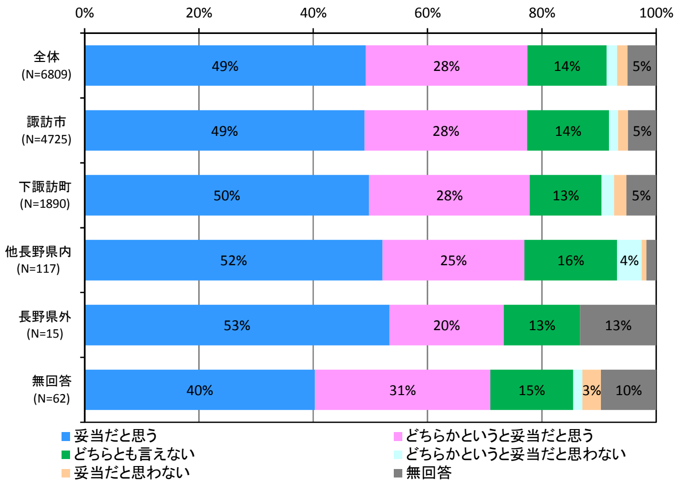


※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

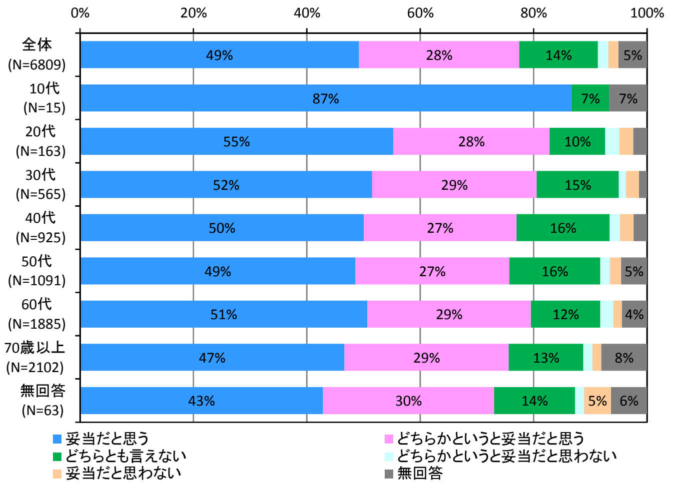
住民等　結果の妥当性（地域別／年齢別）

◆ 地域別の第1回結果の妥当性では、地域による「妥当だと思う」と思う割合に差異はあまりない。
◆ 年齢別の第1回結果の妥当性では、年代が高くなるほど「妥当だと思う」と思う割合が低くなる傾向にある。

【地域別妥当性】



【年齢別妥当性】

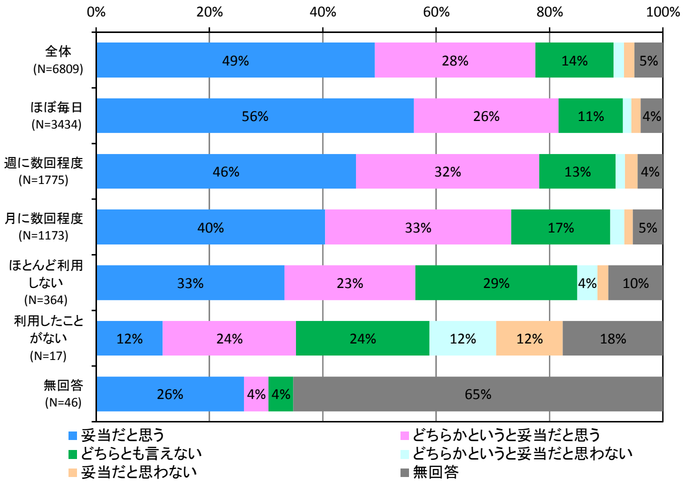


※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

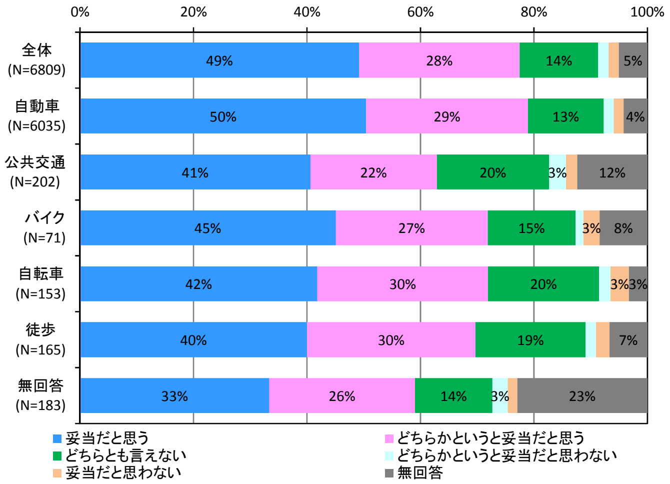
住民等　結果の妥当性（頻度別／手段別／目的別）

- ◆ 利用頻度別の第1回結果の妥当性では、利用頻度が高くなるほど「妥当だと思う」と思う割合が高い傾向にある。
- ◆ 移動手段別の第1回結果の妥当性では、自動車・バイク利用者が「妥当だと思う」と思う割合が低い。
- ◆ 移動目的別の第1回結果の妥当性では、通勤・通学目的が「妥当だと思う」と思う割合が高い。

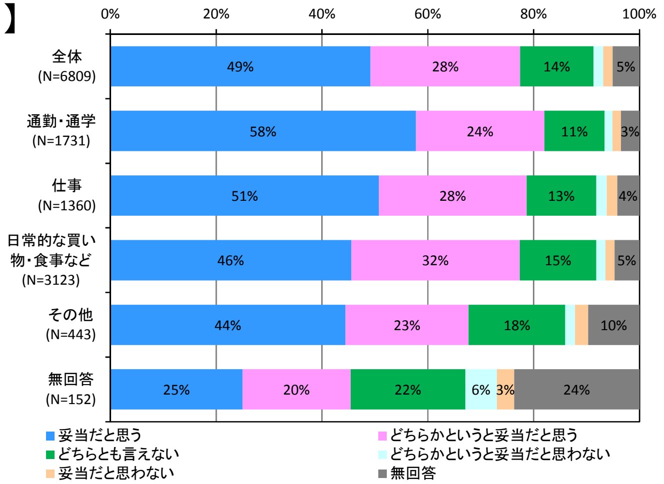
【利用頻度別 妥当性】



【移動手段別 妥当性】



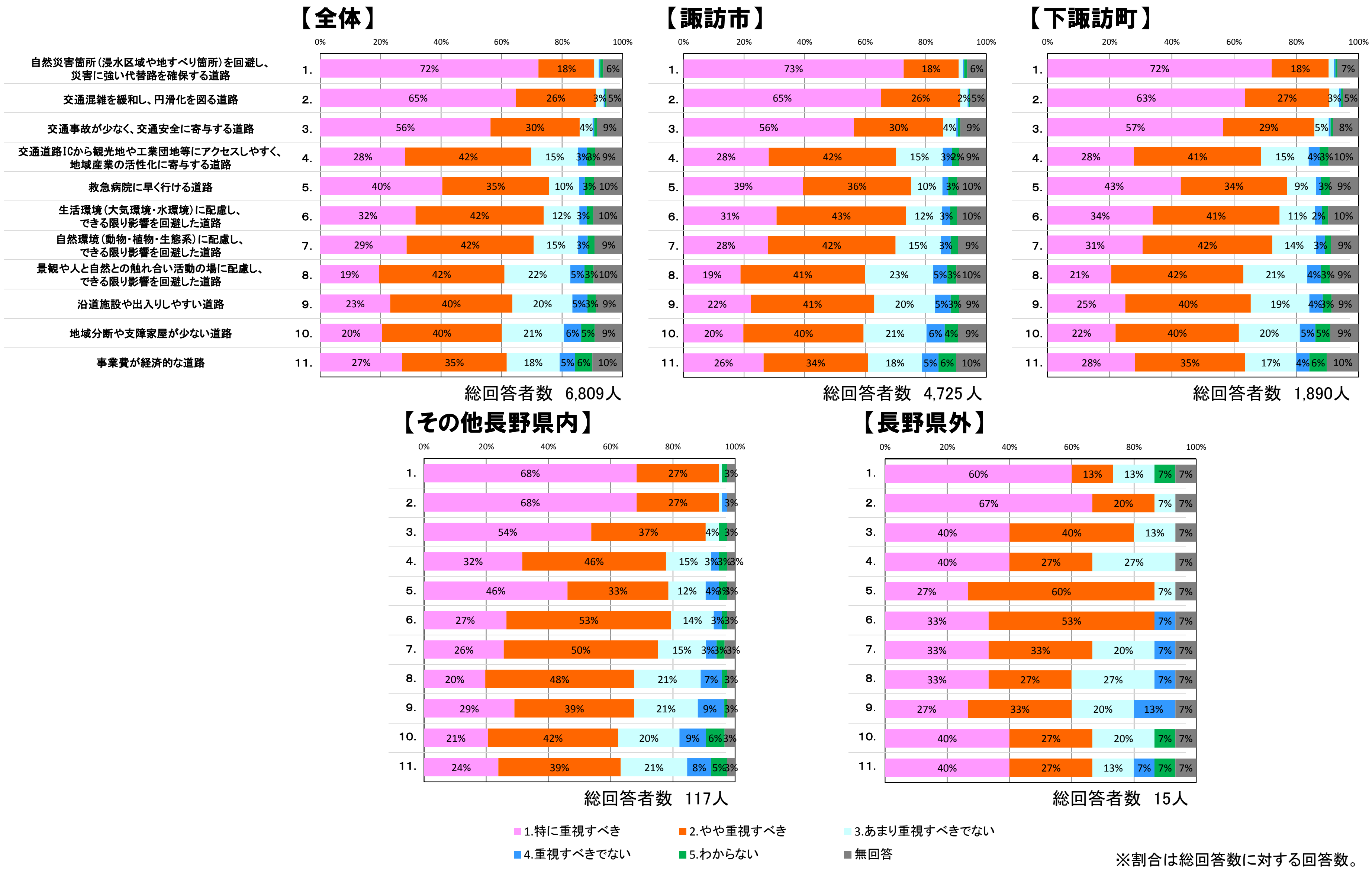
【利用目的別 妥当性】



※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

住民等　重視すべき項目（地域別）

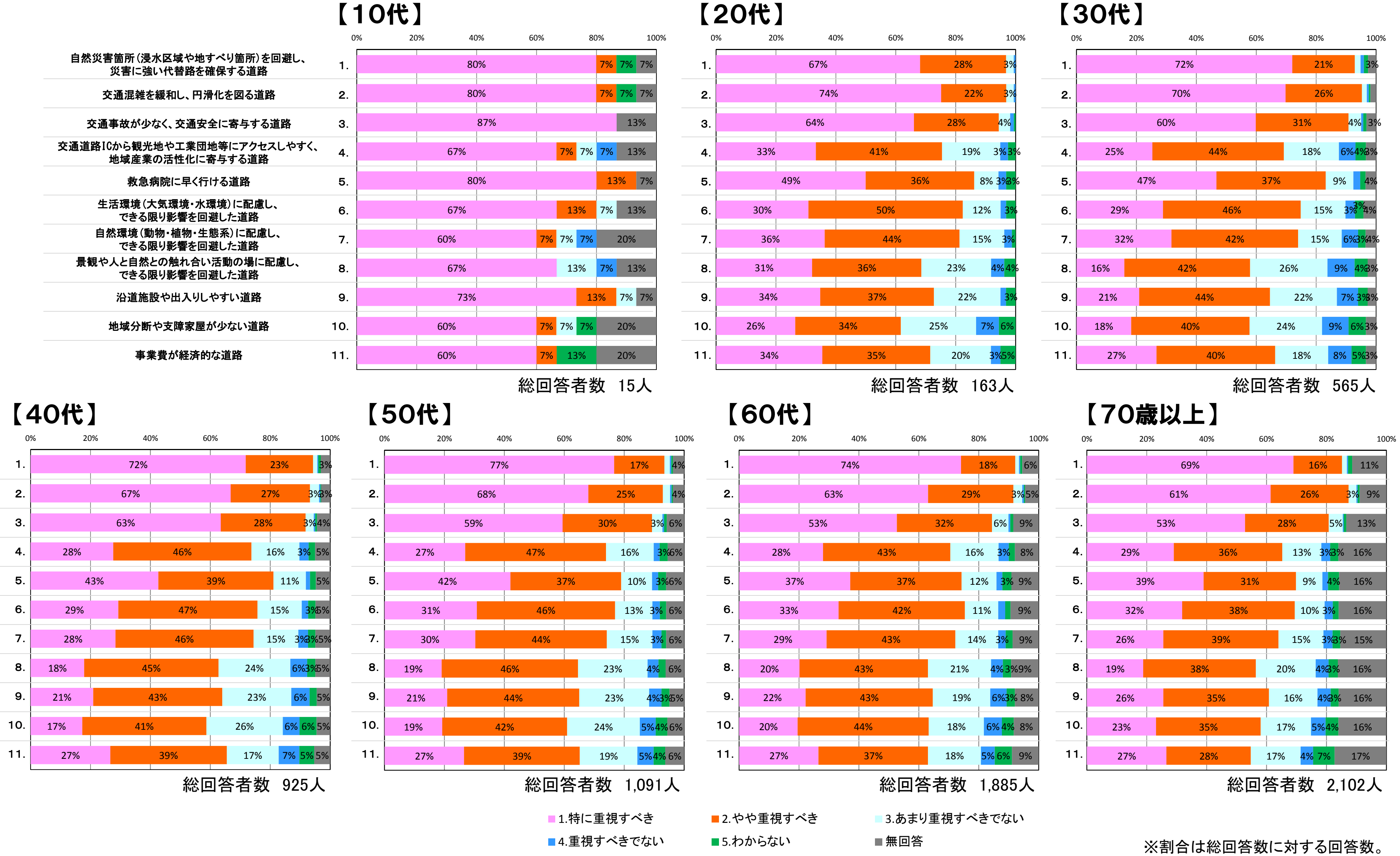
◆ 地域別の重視すべき項目では、地域による差異はあまりない。



※割合は総回答数に対する回答数。

住民等　重視すべき項目（年齢別）

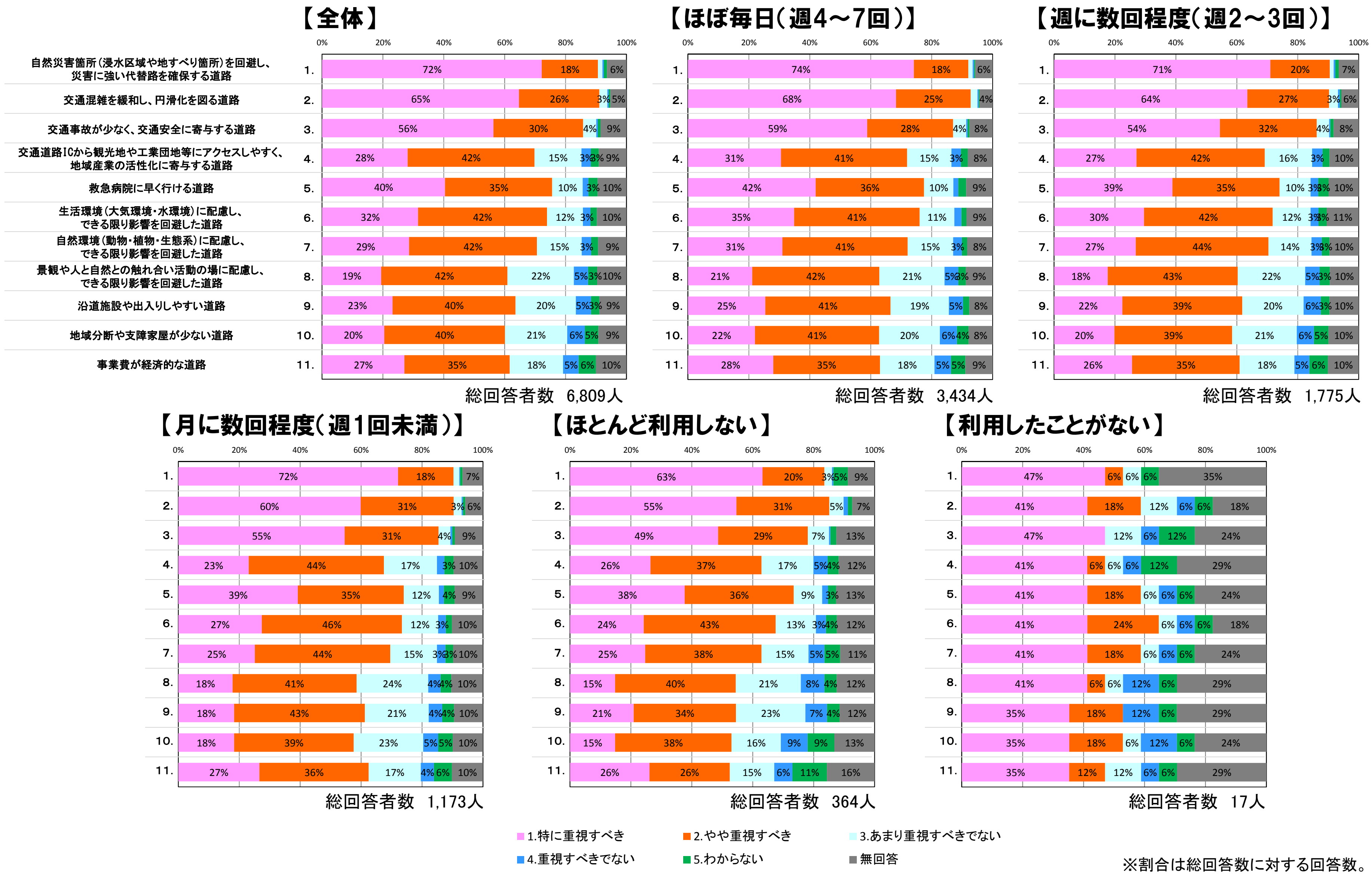
◆ 年齢別の重視すべき項目では、年齢層による大きな差異はあまりない。
年齢層が高くなるほど、無回答の割合が高くなる傾向になる。



※割合は総回答数に対する回答数。

住民等　重視すべき項目（利用頻度別）

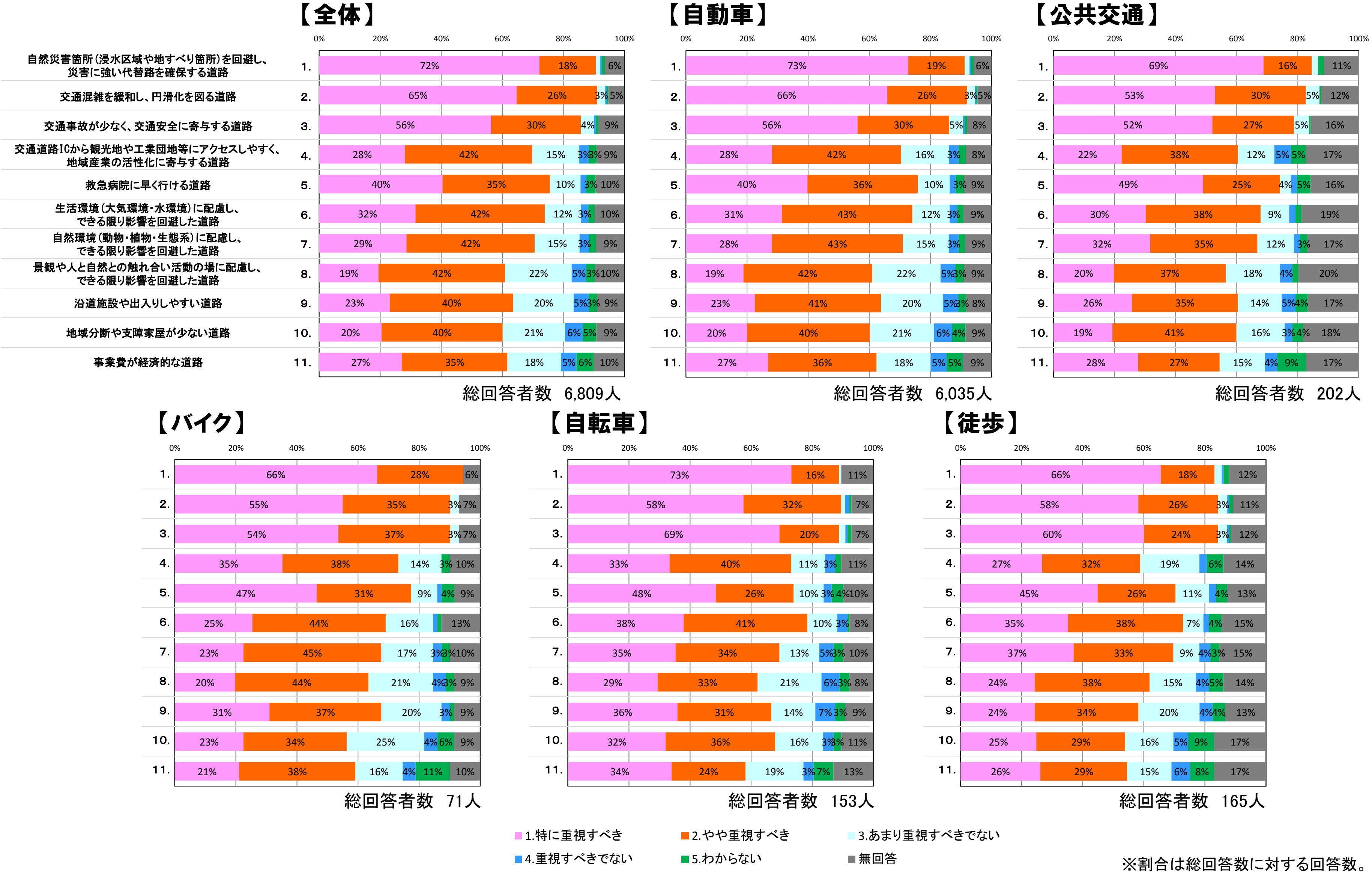
◆ 利用頻度別の重視すべき項目では、利用頻度による大きな差異はあまりない。
利用頻度が低くなるほど、無回答の割合が高くなる傾向になる。



※割合は総回答数に対する回答数。

住民等　重視すべき項目（利用手段別）

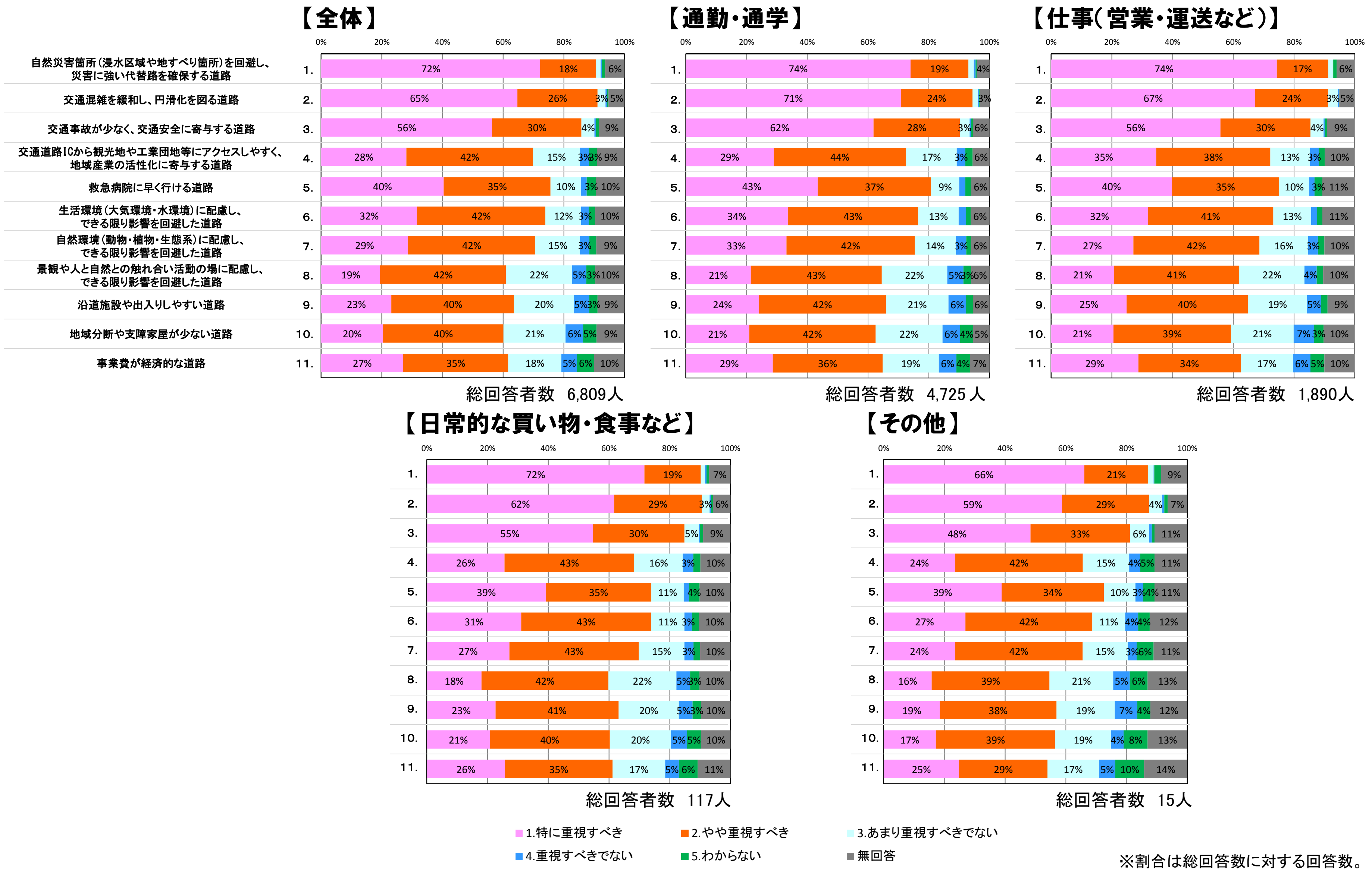
◆ 利用手段別の重視すべき項目では、利用手段による差異はあまりない。
手段が「公共交通利用」や「徒歩」の場合、無回答の割合が比較的高い。



※割合は総回答数に対する回答数。

住民等　重視すべき項目（利用目的別）

◆ 利用目的別の重視すべき項目では、利用目的による差異はあまりない。



※割合は総回答数に対する回答数。

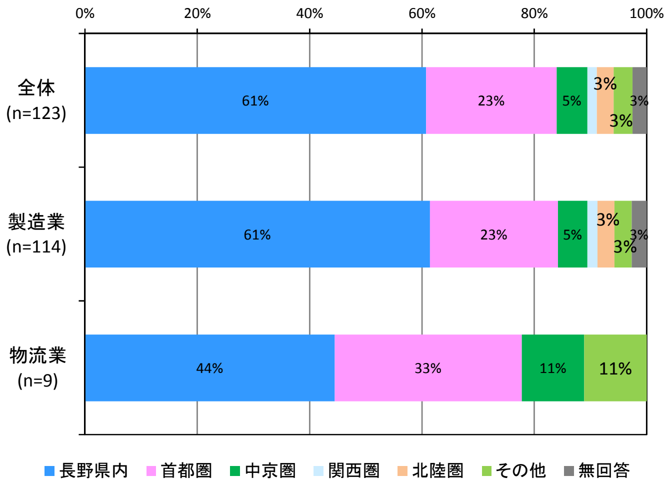
参考2. クロス集計結果【事業者】

◆ 製造業と物流業の業種別の入出荷先では、業種による差異はあまりないが、利用路線・ICでは、物流業の国道20号利用の割合が高い。

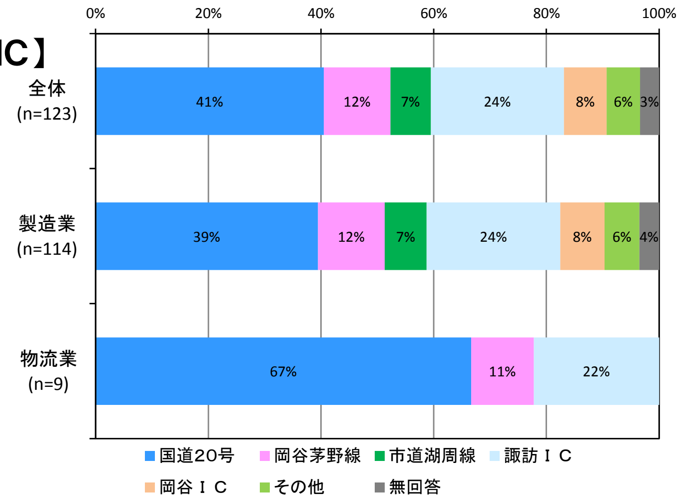
◆ 観光業と宿泊業の業種別の観光客の居住地では、宿泊の方が長野県外（特に、首都圏）の割合が高い。
諏訪地域までの移動手段や諏訪地域内での移動手段では、業種による差異はあまりない。

製造業 物流業

【業種別 入出荷先】

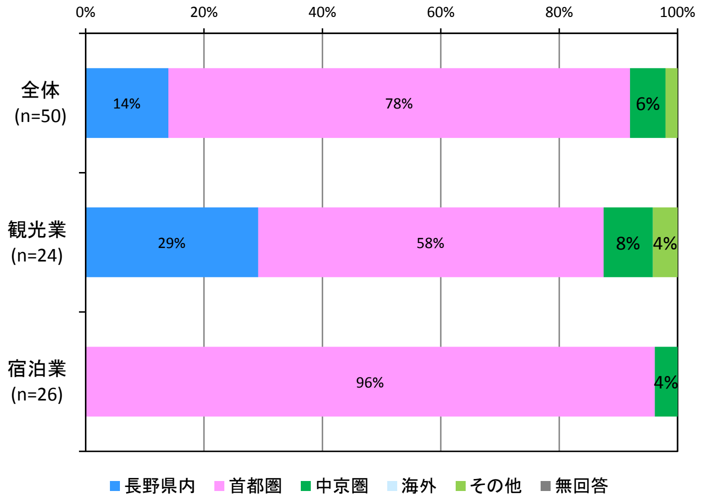


【業種別 利用路線・IC】

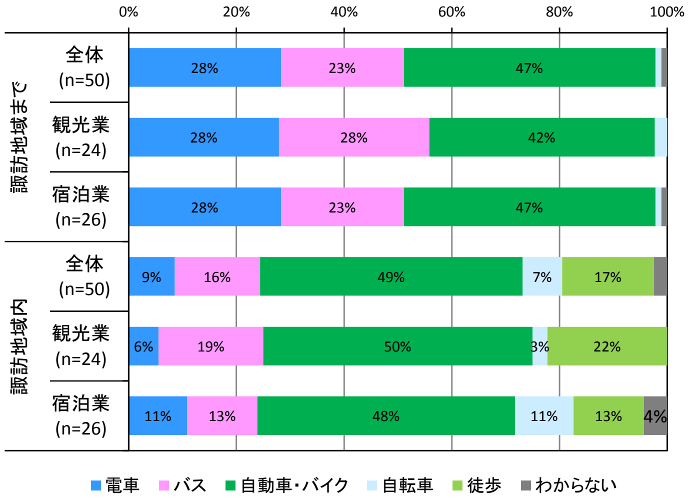


観光業 宿泊業

【業種別 観光客の居住地】



【諏訪地域内外 移動手段】

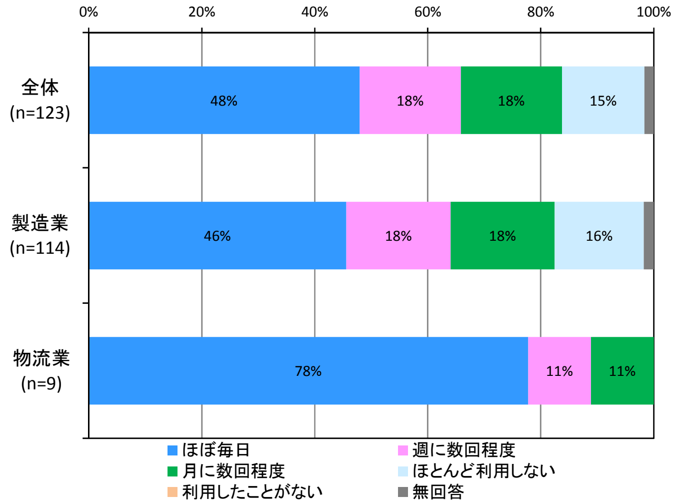


※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

事業者　利用頻度（業種別）

◆ 製造業と物流業の利用頻度は、物流業者の方が「ほぼ毎日」利用する割合が高い。

【業種別 利用頻度】



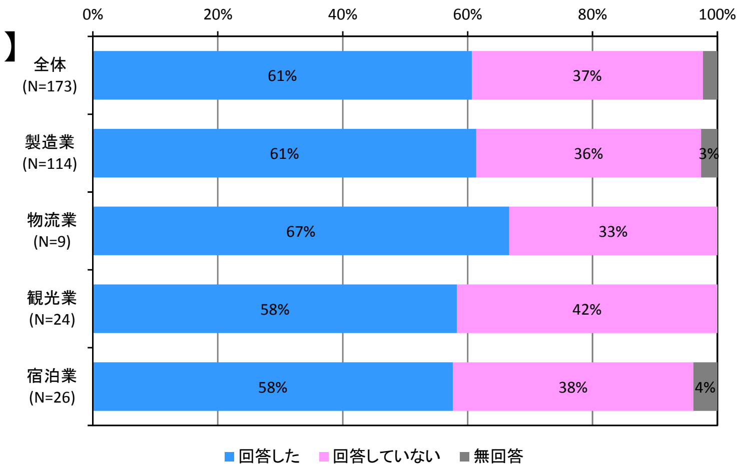
※国道20号の利用頻度は、製造業と物流業のみに対する設問。

※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

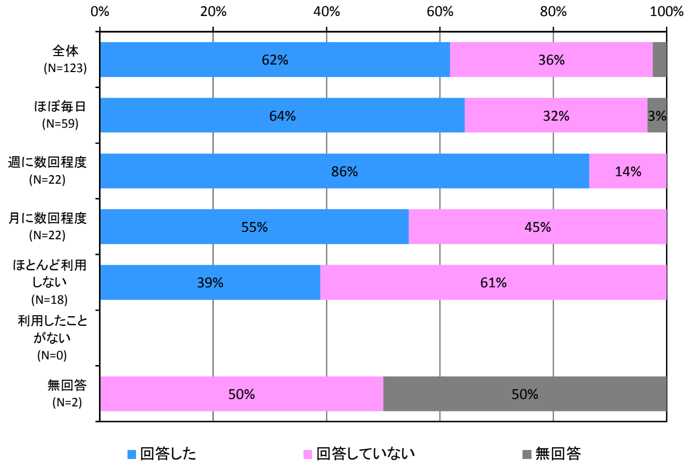
事業者　回答状況（業種／頻度別）

◆ 業種別の回答状況では、「回答した」の割合に差異はあまりない。
◆ 利用頻度別の回答状況では、「回答した」の割合は、頻度によってバラツキがある。

【業種別
回答状況】



【利用頻度別
回答状況】



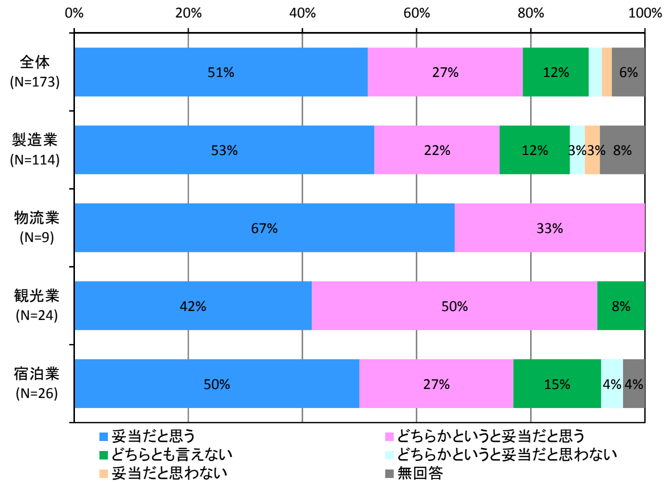
※国道20号の利用頻度は、製造業と物流業のみに対する設問。

※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

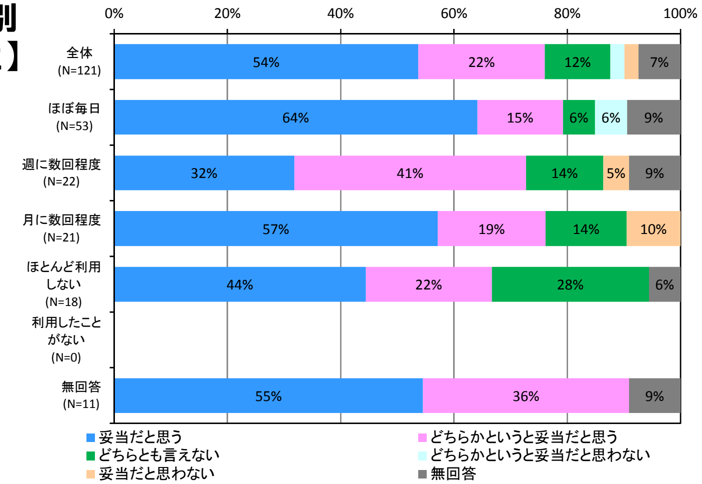
事業者　結果の妥当性（業種／頻度別）

◆ 業種別の第1回の結果では、「妥当だと思う」割合が業種によって異なり、物流業が高く、観光業が低い。
◆ 利用頻度別の第1回の結果では、「妥当だと思う」割合が、頻度によってバラツキがある。

【業種別
妥当性】



【利用頻度別
妥当性】



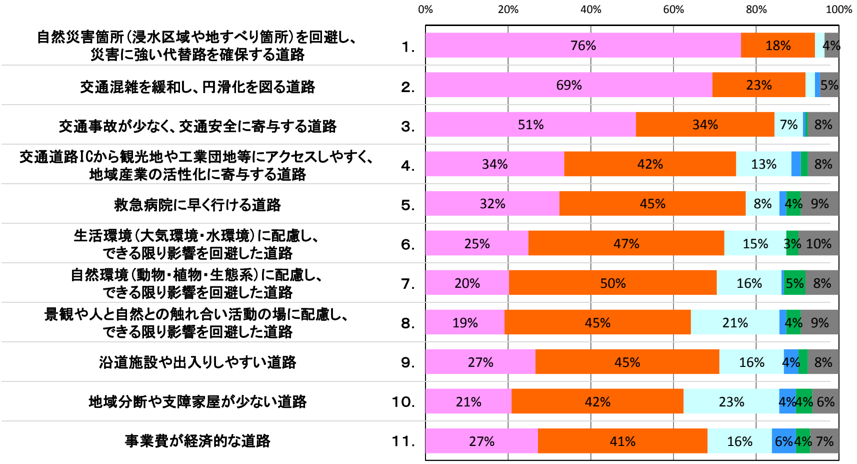
※国道20号の利用頻度は、製造業と物流業のみに対する設問。

※Nは各項目の総回答数。割合は当該選択肢の総回答数に占める回答数。

事業者　重視すべき項目（業種別）

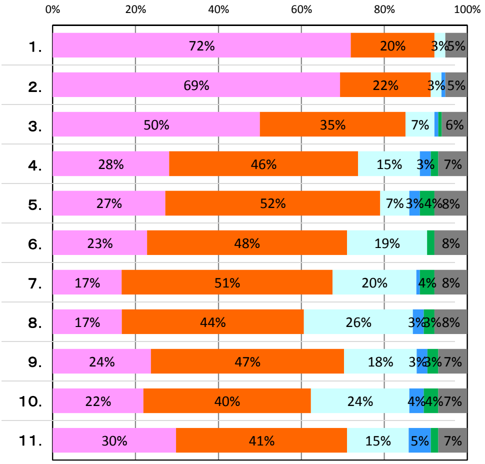
◆ 利用頻度別の重視すべき項目では、頻度によってバラツキがある。

【全体】



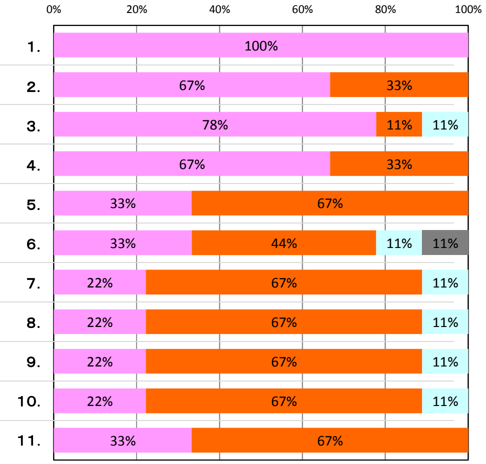
総回答企業数　173社

【製造業】



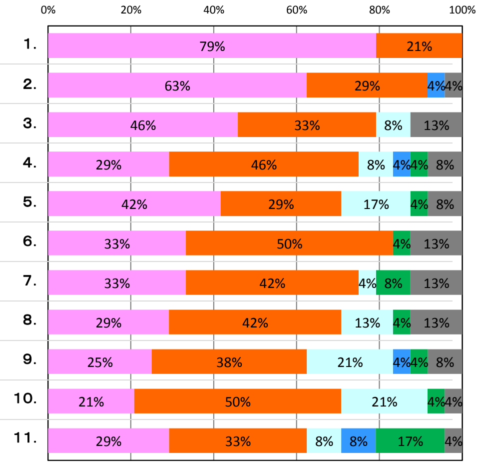
総回答企業数　134社

【物流業】



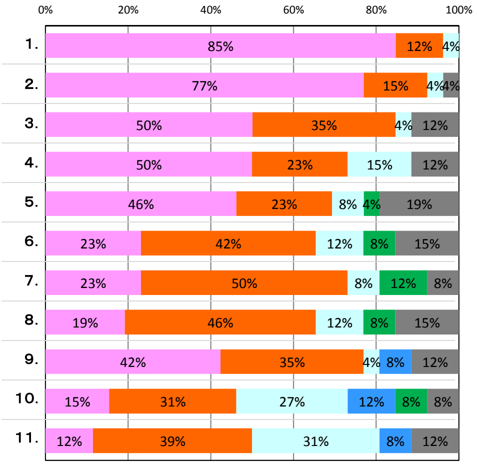
総回答企業数　9社

【観光業】



総回答企業数　30社

【宿泊業】



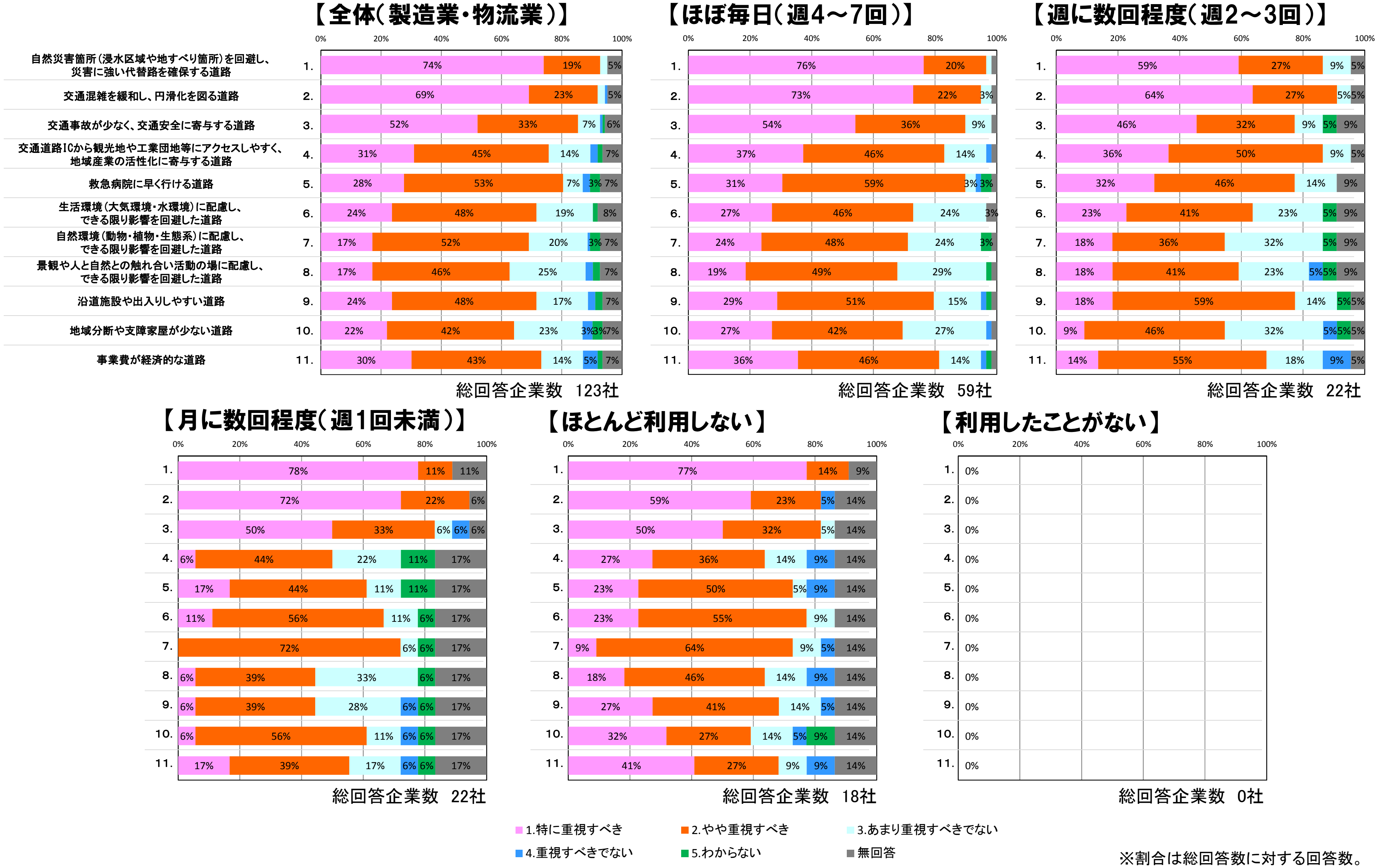
総回答企業数　41社

■1.特に重視すべき　■2.やや重視すべき　■3.あまり重視すべきでない
■4.重視すべきでない　■5.わからない　■無回答

※割合は総回答数に対する回答数。

事業者　重視すべき項目（頻度別）

◆ 業種別の重視すべき項目では、業種によって重視すべき項目が異なる。
物流業は「災害に強い代替路の確保」が100%で、宿泊業は「沿道施設に出入りしやすい道路」の割合が高い。



※割合は総回答数に対する回答数。